

# インターポート

兵庫教育文化研究所だより

No. 241

2025年9月5日

発行所 兵庫教育文化研究所  
〒650-0004

神戸市中央区中山手通 4-10-8

## 人々の暮らし中から生まれた日本の民謡を聴こう

音楽教育部会では、加東市内の中学校において授業研究会を実施しました。1年生の題材「日本の民謡」において、郷土に伝わる民謡「かとうよしよし音頭」を取り上げた内容でした。

前時では、日本の代表的な民謡「ソーラン節」を聴いたり、声や音楽の特徴を生かして歌ったりする活動をおこないました。民謡には作業歌、祭り歌、踊り歌・・・などの種類があることを学習しました。

本時では、まず前時での学びを振り返り、民謡の種類や特徴について確認しました。

はじめに「かとうよしよし音頭」を鑑賞し、曲調や歌詞の特徴について考えました。ワークシートを活用し、加東の特徴がわかる歌詞を見つけ、全体で交流しました。産業、特産、行事、自然や街の様子などカテゴリーにわけながら子どもの発言を板書し歌詞を確認していきました。

次に、「かとうよしよし音頭」にはどのような思いが込められているだろうという発問に対して、子どもたちからは「加東市に住んでいる人が加東市のこととき誇りに思ってほしい」、「多くの人に加東市の良さを伝えたい」など多くの意見が出されました。

最後にみんなで歌にあわせて踊る場面が設定されていましたが、本時では時間がたらずできませんでした。授業者は夏休みには各地域の盆踊りに参加し、地域の方と交流を深めるきっかけになって欲しいと子どもたちにも投げかけていました。

授業後の研究会では、授業者から「民謡は子どもにとってなじみの薄い音楽ではあるが、郷土で生まれた民謡にふれることで、民謡への興味関心を高めることができた。授業の中で踊ることはできなかったが、踊りに興味を示す子どももあり、これをきっかけに盆踊りなどの地域行事へ参加する子どもが増えてくればと思う」と報告がありました。参観者からは、「様々な背景を抱えている子どもが多く在籍している中、子ども一人ひとりの気持ちに寄り添って授業を展開されていた」、「地元にある音楽を上手く取り入れて題材を構成されていた」、「郷土を知る教材として大変有効である」等の感想がありました。

音楽教育部会では引き続き、日本の伝統的な音楽の指導について研修を深めたいと考えています。

